

科目名	治療・処置・検査に伴う援助技術	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	<p>看護師は医師の指示に基づき診療に伴う検査・治療・処置の一部の実施や、看護援助を行う。診療の場面では侵襲を伴うものが多く、対象の心身に苦痛を与える援助も少なくない。また、看護師の活動の場が病院から地域へと多様な場に広がることで、看護師には医療職者として健康状態の解釈や適切な判断・行動が求められる。そのため、科学的根拠に基づき対象者へ安全・安楽・的確(正確)に実施することの重要性と実施するための基礎的な知識・技術・態度を学ぶことは不可欠である。ここでは、無菌操作、創傷管理技術、症状・生体機能管理技術、呼吸・循環を整える技術についての看護援助が実施できるための能力を養う。</p>		
授業形態	講義・学内実習		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療・処置・検査に伴う援助の必要性和原理・原則に基づく正確で確実な看護技術について理解できる。</li> <li>2. 治療・処置・検査に伴う看護技術を原理・原則に基づいて正確・確実に実施できる。</li> <li>3. 治療・処置・検査を受ける患者の心理を理解し、患者の受ける苦痛とプライバシーに配慮することができる。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創傷管理技術 講義・学内実習 包帯法 巻軸帯の基本・三角巾を用いた固定法 事前学修：包帯法に関するワークの提出</li> <li>2. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 事前学修：無菌操作の基礎知識をまとめる 事後学修：授業内で指示する</li> <li>3. 無菌操作 2) 無菌操作の実際 学内実習 ①ガウンテクニック ②滅菌手袋の装着 ③滅菌物の取り出し方・扱い方</li> <li>4. 無菌操作 鑷子の扱い方 学内実習 事後学修：鑷子の使い方 ワーク提出</li> <li>5. 呼吸・循環を整える技術 1) 吸引 ①中央配管による鼻腔・口腔の吸引 事前学修：口腔・鼻腔から気管に至るまでの解剖</li> <li>6. 呼吸・循環を整える技術 吸引 学内実習 事後学修：技術チェックへ向けての技術練習</li> <li>7. 呼吸・循環を整える技術 2) 吸入療法 酸素吸入療法 ①中央配管と酸素ボンベからの酸素吸入 ②酸素ボンベの取り扱い 事後学修：酸素ボンベの残量、使用時間について</li> <li>8. 9. 中央配管による鼻腔吸引 技術チェック</li> <li>10. 症状・生体機能管理技術 生体検査・検体検査に関する介助技術 ①検査の目的と種類 ②生体検査・モニタリング</li> </ol>		

	<p>11. 症状・生体機能管理技術 学内実習</p> <p>12 誘導心電図</p> <p>事後学修:血液検査の目的と項目</p> <p>12. 症状・生体機能管理技術</p> <p>検体検査</p> <p>13. 14. 採血法 学内実習</p> <p>事後学修:①採血部位となる静脈の走行と周辺の動脈・神経</p> <p>②静脈血採血の手順と根拠</p> <p>③採血を避ける部位とその理由</p> <p>④採血管が複数ある場合の順序と根拠</p>
使用テキスト	<p>・系統看護学講座専門分野 基礎看護学2 「基礎看護技術Ⅰ」第19版 茂野香おる著 医学書院</p> <p>・系統看護学講座専門分野 基礎看護学3 「基礎看護技術Ⅱ」第18版 任和子著 医学書院</p>
事前・事後学修	<p>内容については「授業計画」を参照してください。</p> <p>技術においては、講義・学内実習以外の自分の時間で繰り返し練習を行ってください。</p>
評価基準および評価方法	筆記試験で評価する
備考	

字体は MS 明朝

字の大きさは 10.5 ポイント

列の設定・余白は変えないでください